



ほけんだより

令和3年6月
きりしま保育園

今年は梅雨入りが早く天気の悪い日が続きましたが、6月に入って急に暑くなる日があったり、肌寒い日があったりと体調を崩しやすい季節でもあります。新型コロナウイルスの蔓延も続いており、保育園ではできる限りの感染予防対策をとりながら安全な保育園生活を送れるように努めています。

6月からはどろんこ遊びやシャワーが始まりますが、下記を参考にご家庭でもお子さまの健康管理や皮膚トラブルなどにも留意していただくようによろしくお願いたします。

とびひ

アトピーやあせも、虫刺され、すり傷などを手でさわったりかいたりすると、皮膚の表面に細菌が付着して繁殖し、皮膚がただれて、水ぶくれになったり、かさぶたになったりします。なかでも黄色ブドウ球菌は高温多湿を好むため、夏に流行しやすいです。



患部を触った手で体の他の場所に触れると、感染がさらに広がります。ガーゼなどで覆って、患部に直接触れないようにしましょう。水ぶくれができると一気に広がるので、医療機関を受診し内服の抗生物質を処方してもらいます。子ども間で感染しやすいので、家庭でもタオルの共有や、きょうだいとの入浴は控えましょう。虫刺されやすすり傷は放置せず清潔にし、とびひにならないように注意が必要です。汗をかいたらこまめに着替え、爪は短く切り体を清潔に保つことが一番の予防法となります。



水いぼ

ウイルスの感染によってできる「いぼ」の一種で、プツツとした水ぶくれが体全体に散っていることもあれば、部分的に固まって発症することもあります。乾燥肌やアトピー性皮膚炎の人が、ひどくなりやすい傾向にあるようです。患部をかいていぼがつぶれないようにしましょう。

あせも

汗の出る穴が詰まり、皮膚の内側に汗が溜まって炎症が起こる症状で、細かく赤い発疹が出ます。綿などの吸湿性・通気性のある衣服を選んで、汗をかいたらこまめに拭き、衣服を着替えさせるのが一番の予防法です。シャワーや沐浴など、スキンケアで治まることもありますが、かゆみがある時は、医療機関を受診して、処方薬が必要になることもあります。

